



京都 YWCA

3 2023



古都に咲いて100年

これからを生きる子ども・若者の声を聴くために

1月28日土曜日、京都YWCAと関西セミナーハウスとの共催で公開講座を開きました。「最強寒波」が日本列島に襲来し、京都に大雪をもたらした数日を乗り越えた寒さが厳しい日でした。佛教大学社会福祉学部准教授の長瀬正子さんを講師に迎え、話をしてもらいました。

テーマは「生きづらさの声を聴く～コロナ禍の子ども・若者の権利侵害～」です。私たちは新型コロナウイルス感染症による生活の変化で、当たり前であったものが次々と崩壊していく世の中を生きてきました。そんな中の子ども・若者の「生きづらさ」とはどのようなものだったのでしょうか。

はじめに、参加者からそれぞれが感じること、子ども・若者に与えたであろう影響を出してもらいました。その後、当事者の声を聞かせてもらいました。制限が日常的になるということは、子ども・若者にとって「時間」、あらゆる機会・余白が減少してしまいます。そのことを「話す」機会が得られると、「私だけじゃなかったんだ」と感じられたようで、話すまでは「我慢することが多くても仕方ない、と思うようになってしまった」ようです。しかし、人間は強い側面もあり、リモートによる通信手段など新たなツールを手に入れ、使いこなすようになりました。

子どもの「参加する権利」の重要さ

気持ちを言葉にすることの大切さを知り、その気持ちが教えてくれるのは「今・ここ」の自分を承認しようとしていることです。感情への認知には安心感が不可欠であり、子どもたちが安心感を持てるように大人が動かないと、子どもの環境は動きません。そして子どもに安心感を与え、その声を聴くために「子どもの権利」という視点を持つことが必要です。

子どもの権利には4つの種類があります。「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」、「参加する権利」です。そのため

には、大人も支えられる必要があります。大人集団そのものが助け合える関係性かどうか、子育てにおけるお金、時間、人間関係は重要です。その中で子どもの意見表明・参加の権利についてよく話されますが、なぜ大切なのでしょう。意見表明・参加の権利は、子ども自身が自分の権利を保障できるように助け、子どもにとって最も良いことを考える上での指針、方向性を決める中心となるからです。「参加する権利」は、「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」のすべてに影響を与えます。

長瀬さんからの話の後、グループに分かれて話しあってもらいました。さまざまな分野からの視点や、子どもの権利を知っているからこそその思い、社会的養護出身の子ども・若者支援の現実など、思うことを話してもらいました。話したいこと、聞きたいことはたくさんありましたが、長瀬さんからの話をもとに、それぞれの立場からこれから生きていく子ども・若者に対して、私たちには何ができるのかを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

お聞きしたことすべてをこの紙面で伝えることは難しいですが、参加された方々がそれぞれの場所でシェアしていただき、たくさんの人に伝わってほしいと願います。

(山本佳奈)



集中して講演に耳を傾ける参加者

シリーズ——日本語でつなぐ笑顔と笑顔 (1) ～にほんご教室「洛楽」～



ようこそ洛楽へ！

1995年11月、当時の国際交流グループのメンバー3人が一粒の種を蒔いた。3人が蒔いたのは「日本語教室」の種であり、留学生の配偶者に対する日本語学習支援の必要性を実感したためであった。1996年「日本語教室」は京都YWCAの活動として認められ、その数年後、教室の正式名称を「京都YWCAにほんご教室『洛楽』」とした。

「洛楽」とは、「洛」京都で「楽」楽しく暮らすために、という意味である。芽生えた「洛楽」はその後27年間にさまざまな変遷を経て、現在は講師16名、受講生約60名の、京都YWCAの中でも大きな活動グループとして成長してきた。創始当時より講師は会員・会友に限り、また日本語教育能力試験合格者・養成講座修了者等という規定を設けている。京都府下に日本語ボランティア団体が22あるが、この規定を採用しているボランティア団体は数少ない。

洛楽では入門・初・中・上級の4レベルのクラスを月曜日から土曜日まで16クラス開講している。各講師は受講生のニーズに合わせ教材を選択し、工夫を凝らして授業を行っている。受講生は20以上の国と地域から来ており、熱心に日本語を学んでいる。日本語を学ぶだけでなく、

ある受講生達は希望の家カトリック保育園や京都YWCAあじさい保育園で自国の文化や遊びを子ども達に伝え、多文化保育の一翼を担った。京都YWCAのイースター集会で洛楽講師と共にウクライナの惨状を訴えたのも元洛楽の受講生であった。

このように洛楽に関して多くの皆様に発信できることは私ども洛楽メンバーの大きな喜びである。本紙で6回にわたりシリーズで洛楽を紹介する予定であり、次回もごうご期待。また、洛楽紹介動画を作成し京都YWCAのホームページに掲載予定なので、この動画も是非ご覧いただきたい。

(三木みや子)



にほんご教室「洛楽」授業風景

APT が 30 周年記念誌を刊行！

外国籍住民を対象とした電話相談と支援活動をしている京都YWCAAPT (Asian People Together) は一昨年活動30周年を迎え、記念誌を刊行しました。

30年のあゆみを概観し、支援が長期に亘った特徴的なケースを3つご紹介しています。最後の第三部では市民による外国人支援団体の役割について法律、医療、教育の視点から専門家に書いていただきました。



APT30 周年記念誌

皆さんにもぜひお読みいただき、この30年間外国籍住民が置かれた状況がどのように変わってきたか、あるいはまた何が変わっていないか、今後も多文化共生の社会を目指していく上で何が必要か、皆さんと共に改めて考える機会になればと思います。

(神門佐千子)

かふえビジョンチーム企画 お話会 持続可能なカフェを目指して

去る1月16日に、出町柳駅近くにあるリバーサイドカフェ (シェアカフェ) から垣内優さん (管理人) をお迎えしてお話を伺った。前半は垣内さんから店長が日替わりする「シェアカフェ」のシステムの説明、そして後半は質疑応答のプログラムであった。垣内さんが詳細で分かりやすい説明をしてくださった。質問にも一つ一つ丁寧に答えていただいた。

これからの京都YWCAのかふえのあり方についてヒントをいただけたと感じた。これからも垣内さんとのご縁を大切に、お互いに食に関係する者同士として繋がっていければと思う。

(ヘイナ啓子)



垣内さんのお話を皆熱心に耳を傾けた

京都YWCA100年の歴史を知る集い——最終回を迎えて 「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」に取り組んだ10年

2021年5月から京都YWCAの100年の歴史を振り返る集いをシリーズで開始したが、1月14日の第5回で最終回を迎えた。

京都YWCAが設立90周年を迎えた2013年に、国土交通省が募集したモデル事業に、京都YWCAの事業や活動全体を「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」と位置付けた提案で応募し、選定された。その提案に沿って建物の耐震工事・大規模改修を実施して新事業に取り組んだ。具体的には2014年にふれあいの居場所食堂（うららかふえ）と高齢者住宅と留学生寮を開始し、2015年には自立援助ホームを開所した。2020年には保育園を開園し、現在に至っている。建物の風景も変わり、まさに「激動の10年」であった。

その一方で、2011年からの被災者支援は続けられ、韓国の若者との交流プログラムが生まれ、親子ライブラリーは20周年を迎えた。現在、新事業は変化する社会のニーズに合わせて新たな展開を見せている。

当時の会員活動の運営委員会の会長を担った4名が当時の思いを語った。また、自立援助ホーム「カルーナ」のホーム長からは、さまざまな事情で家にいることができない若い

女性たちがカルーナを利用し、彼女たちに安心して過ごせる居場所を提供していることが話された。

京都YWCAの高齢者住宅にお住まいの方も数名参加された。参加者それぞれが京都YWCAと自らの関りに触れて、多少困難なことも皆でやり遂げていくことの面白さや楽しさを語りあうひとときもあった。京都YWCAの事業や活動の中に、女性や子どもをエンパワーし、多様な人々を受け入れる風土があることが、長く活動を続けられる理由だということも語り合われた。

100周年の節目となる今年、世代が違う多彩な人々が出会い協働するコミュニティを次の世代に引き渡していきたい。

（編集部）



グループに分かれて語り合う



シリーズ——京都YWCA100年の歩み(13)

保育園の開園——

「乳児から高齢者まで」のコミュニティに

京都YWCAは2014年より「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を進めてきたが、2020年に京都YWCAあじさい保育園を開園し、この春に4年目を迎える。

2017年に京都市より開園の依頼を受け話し合いを重ね、決定したのは2018年度末。2019年度は園舎建設等、諸々の準備を同時並行で進めつつ、会員と職員で現在の事業活動と保育園との協働の可能性を話し合い、どのような保育を目指すかを話し合った。その結果、YWCAが長年取り組んできた活動の中で大切にしてきたことを園の理念、方針にし、次のように決めた。

基本理念：

キリスト教を基盤とした保育をします。一人ひとりが愛される大切な存在として、いのちを大切にし、共に生きることを目指します。

保育方針：

心と体の成長を大切にします。

子どもの意思決定を大切にし、自己表現ができるように応援します。

国籍、言語、文化、宗教、障がいの有無などの違いは豊かさを生むと考えます。

子どもも大人も人との関りの中で互いに学びあいます。大人も子どもから学ぶ姿勢を大切にします。

保護者に寄り添い、共に子どもの成長を支えます。

開園よりこの理念、方針を保育で実践していくことを日々、進めてきている。それぞれの職員の経験から保育観が違うこともあるが、違いから互いに学びあい、年々、チームとしてまとまってきていることを実感している。

1年目は「キリスト教を基盤とした保育」をテーマに、今年は「多文化共生」について全職員対象の研修をした。別々のテーマのようだが、「一人ひとりを大切にすること」につながっている。

職員がそれぞれ大切にしてきた保育観が融合し、共に経験を重ね「YWCAらしい保育」に至るまで、歩み始めたばかりである。

（井上依子）



映画紹介 『プリズン・サークル』 (2019年、監督：坂上香)

日本の刑務所を特徴づけているものは強要された沈黙だという。また、社会も罪を犯した人の発言を許さない。PFI方式*の日本の刑務所としては4番目の「島根あさひ社会復帰促進センター」では日本で唯一「TC(回復共同体)」という更生プログラムが実施されている。

(※ Private Finance Initiative 民間の資金やノウハウを活用する手法)

米国の受刑者の取材を続けた坂上香が、このTCに2年間密着して撮った映画作品が『プリズン・サークル』。

受刑者にならざるを得なかった思い出したいくない困難や激しい感情と向き合うことなしに、彼は語るべき言葉を獲得できないだろう。また、語りは聴く人がいて初めて「語り」になる。対話こそが罪と向き合う手段となり、人としての成長と回復をもたらすというこの証明が本作品にある。

(京都YWCAでは6月に上映会を予定)



「京都YWCA100周年記念募金」 へのご協力をお願い



京都YWCAは今年100周年を迎えました。現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しており、この歩みをさらに前進させるために、100周年記念募金を実施いたします。ご寄付は以下の目的に充てられます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために
- 歴史を未来に引き継いでいくために



目標額：1,000万円

募集期間：2021年4月～2024年3月

募金額：個人 1口 3,000円

団体・企業 1口 10,000円

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都YWCA



オンラインによるご寄付は右のQRコードまたは以下のサイトよりお願いします。

<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

ご協力ありがとうございました

2022年12月1日から1月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

各指定寄付

*法人支援

上村愈巳子、長谷邦彦、野崎泰子、入順子、井上依子、中川美佳子

*クリスマス募金

岡佑里子

各指定寄付

*100周年記念募金

野崎泰子、弘中奈都子、横江美佐子、岩崎洋子、木戸さやか、伊原千晶、平野富希、篠田茜、平城智恵子、安藤紀子、中川昌子、大澤千鶴子、別所加恵、中務博之、有田孝子、梶川雅子

*次世代育成

木戸さやか

*世界総会派遣募金

安藤いづみ

*親・子育て支援活動委員会

室紀子、別所加恵、岡佑里子、京都シオンキリスト教会

*多文化共生委員会

長谷邦彦、日本キリスト教団室町教会、木戸さやか

*APT

野崎泰子、上内英子、宇山進、マーサ・メンセンディーク、岡佑里子、田中康司、杉山知子、西原美那子、

神門佐千子、大手理絵、森田園子、木戸さやか、安藤いづみ、ノートルダム教育修道女会、同志社中学校、ヌヴェール愛徳修道会、日本キリスト教団京都御幸町教会、錦林教会ベスタロッツ保育園、京都・東九条CANフォーラム

*平和・環境活動委員会

野崎泰子

*あじさい保育園

安藤いづみ、安藤昌人

*自立援助ホーム「カルーナ」

野崎泰子、横江美佐子、岡佑里子、吉村富式、認定こども園福井堅三協会、伊原千晶、竹之下雅代、平野富希、木戸さやか、中野おろり、別所加恵、斎藤大輔、村松通子、榎本愛美、近藤八津子、宮川道子、鶴崎祥子、寺田有古、竹岡哲朗、井上摩耶子、澤井聡子、有田佳子、矯風会京都部会、日本キリスト教団京北教会、京都シオンキリスト教会、日本キリスト教団室町教会オリーブの会、日本キリスト教団桂教会、日本聖公会聖アグネス教会、日本聖公会奈良基督教会、日本キリスト教団伏見教会、平安女学院中高宗教センター、匿名

*賛助費

長谷邦彦、野崎泰子

★テレビで見かけた話題の文具

★行事で使うノベルティ商品

★プレゼントに適した商品

事務機・事務用品の事ならなんでもご相談下さい。



株式会社 正美堂

京都市中京区壬生坊城町25番地
TEL: 075-841-4371 FAX: 075-811-6590

URL: <http://www.syobido.jp/>

阪急電車京都線「大宮駅」下車
西出口から出て、四条通り沿いに徒歩4分(北側)

1・2月／理事会報告

- 日本YWCAの岸田内閣総理大臣に向けた「安保3文書閣議決定」に対する抗議文に京都YWCAとして賛同。
- 1/14：自立援助ホーム「カルーナ」の利用者・退所者の新年会を実施。
- ロビーにて古本市を開催(2/1-3/11)
- 日本YWCAのガバナンスをテーマにした研修に、理事運営委員か

ら参加。組織運営の担い手育成、会議運営の改善、組織内の意思疎通促進などに今後取り組む。

- 2/10：おやのだんわしつ開催(主催：あじさい保育園、協力：親・子育て支援活動委員会)
- あじさい保育園：庭の夏みかんを使った食育プログラム、5歳児対象の卒業制作「やきもの作り」を実施。

KYOTO YWCA No.573 2023年3月号(3月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail: office@kyoto.ywca.or.jp

HP: <http://kyoto.ywca.or.jp>

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都YWCA

定価：1部50円

発行：奇数月1日発行